

大学生の進路決定に関する経済分析
—進路未定者に着目して—

荒木宏子[†]・安田宏樹[‡]

【要旨】

本稿では、大学4年生の進路未定者の特徴について「正社員」への内定者と比較をしながら分析を行った。

分析の結果、文系学部の大学生の進路未定者の特徴として、私立については偏差値の低い大学に在籍していること、入学経路としてAOや推薦入試で大学に入学していること、かつ、大学における成績も低いなど、学力に関する能力が低い傾向が明らかになった。また、アルバイトやクラブ・サークル活動、友人や恋人との付き合い、インターンシップといった、学業以外の活動を熱心に行っていないことが示された。学部に関しては、「芸術」学部において進路未定学生が多いことも明らかになった。

理系学部の大学生の進路未定者の特徴としては、文系と異なり、大学区分や大学への入学経路、大学での成績など、主に学力的な能力・人的資本を示唆する指標は進路決定に大きな影響を与えていないことが分かった。また、学力以外の人的資本については、進路未定者は友だちや恋人との付き合いに熱心ではないことが観察された。学部に関しては「理学」、「農学」の各学部に在籍する学生は、「工学」部学生よりも進路未定になりやすいことが分かった。

また、文系理系を問わず、進路未定者は、「正社員」内定者に比べ、ジョブ・サーチ活動の開始が遅れていることが明らかになった。さらに、大学入学時までに、将来について何等かの目標や、キャリア意識を持っている学生ほど、進路未定者になりにくいことが分かった。

最後に、進路未定者のうち内定をもらっていないにも関わらず就職活動を断念した「非就活型」の学生の特徴を分析したところ、国立大学の学生や、学業成績の悪い学生、キャリア意識に乏しい学生、芸術学部の学生などが就職活動を断念しやすいことが分かった。

[†] 慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程

[‡] 慶應義塾大学経済学部助教